

## 教育課程

### 1. 学問研究の基本的態度

そもそも、大学とはどんなところでしょうか、大学へは何のために行くのでしょうか、ということについて、あなたたちは予備知識もあり、それぞれに考えを持っていると思います。大学は専門的な知識や技術を与えることはできますが、それらを生かしてあなたたちの目的や期待がかなうかどうかは、あなたたち自身にあるといっても過言ではありません。

大学はいうまでもなく、学問を学ぶ場です。しかも、これまでとは比較にならないハイレベルな学問について自主的に学ぶ場でもあります。自主的に学ぶということがいかに肝要であるかというのは、今日の社会環境が極めて、複雑化、多様化、高度化しているために、それなりの能力を培っていなければ、将来の人生を送る場としての社会があなたたちを容易に受け入れてくれない厳しさがあるからです。

大学には学問の専門性を大きく異にする部門として、学科が設置されています。その学科に集まっている学生の目的と興味・関心に応えるために、多種・多様な科目（講義、演習、実験、実技、実習など）が開講されています。これらの科目を自らの意志で選択し、おそらくは、在学中には数十人の教員の授業を受けることにより、専門的な知識・情報や技術・技能が得られるのが、これまでとはまったく違った勉学のあり方といえます。その結果、いろいろな免許・資格が取得できたり、学外の実習を通して、一時的にせよ、厳しい社会の環境に接することもできます。これらのことはその成果が具体的であるために、ある程度の達成感を覚えることができますが、ただそれだけで満足してはなりません。授業はあくまでも糸口にすぎません。その糸口から、さらにより広く、より深く学ぶためには、「これは一体、どういうことなのだろうか？」という疑問を持つてみることです。自分にとってちょっとした素朴な疑問を、学びたいことと結びつけることで何かが始まるかもしれないのです。しかし、その疑問に対して、いつも答えが見つかるとは限りません。その答えを見つけるために、資料を集めたり、教員や友人と議論をしたりして、全身をぶつけて悩み苦しんで、その答えが見つかった時にはことばで言い表せないほどの感激を覚えることになるでしょう。この感激がまた新たに疑問に立ち向かうエネルギーとなり、次第に知識の量とともに、いかに自らの力で探求し、工夫して学んでいくかという学問の方法が身についていくのです。このことこそが自主的に学ぶということに他なりません。

このようにして、大学で専攻した学問により、あなたたちはそれぞれに基本的な考え方を形づくり、ものの見方や判断力を養うことができるようになるのです。そして、自分が何に向いているのか、向かないのか、自分のやりたいことは何なのかという自己の存在を確かめることができたならば、2年間という学生生活はこの上ない有意義なものとなるに違いありません。

## 2. 短期大学士課程の教育方針について

## 【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）】

京都文教短期大学の学位授与に関する方針は、次の通りである。

- DP1 社会人に求められる教養と専門分野において必要な知識を確実に身につけている。〔知識・理解〕  
 DP2 専門的な技術を確実に修得し、コミュニケーション能力を身につけて、これらを活用することができる。〔技術・表現〕  
 DP3 身につけた知識や技術を活用しながら判断して、表現することができる。〔判断・表現〕  
 DP4 他者と協力し、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる。〔意欲・態度〕

## 【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）】

本学では、「学位授与の方針」に定められた4つの能力を身につけるために、下記の表に示す2つの科目群（共通科目、学科専門科目）を基盤とした教育課程を設け、各科目群のねらいに応じて重点箇所を◎（特に重点を置いている能力）と○（重点を置いている能力）で示す。教育課程は、各授業科目を卒業必修科目と選択科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習、実技の適切な方法により実施する。

## 共通科目

各学科の教育目標である「社会に貢献できる人材の育成」の根幹を成す科目を学科共通の共通科目として開講し、豊かな人間性と感性、確固たる倫理観を培う「建学の精神」、社会人としての教養を養う「現代の教養」、および考える力と問題を発見し解決する力を身につける「キャリア教育」を置く。

科目群		学年配当	DP1	DP2	DP3	DP4	各科目のねらい
共通科目	生活といのち	1～2	◎		○		豊かな人間性と日常における生活力を培う。
	芸術と文化	1～2	○	◎			心の豊かさを身につけ、活用できる力を養う。
	情報と社会	1～2			◎	○	正しい情報を取捨選択し、解決する力を身につける。

## 領域解説

## 【生活といのち】

「建学の精神」の涵養を目的とした科目、「人権」と「いのち」の大切を考える科目および「社会生活」を送るうえでの知識を学ぶ科目を設置している。

## 【芸術と文化】

心の豊かさは、人生にとって自分自身の財産となる。また、各学科での専門教育の理解を深めるうえでも重要である。この領域では、「芸術」「文化」「コミュニケーション」に関する科目を設置している。

## 【情報と社会】

社会人としての常識とスキルの基礎を学ぶ科目を設置している。また、1回生前期に初年次セミナーを必修科目として開講することで、大学での学び方を身につける。

### 学科専門科目

社会における様々な諸問題に取り組むことのできる能力を身につけた人材を育成するための科目を学科専門科目として開講し、専門職に関わる基礎的な知識を身につける講義、専門的な技術(技能)を習得する演習・実技、さらに総合的な能力を駆使して課題に取り組み、探求するゼミナールを置く。

科目群		学年 配当	DP1	DP2	DP3	DP4	各科目のねらい
学科専門科目	講義	1~2	◎			○	専門職に関する知識を身につける。
	演習	1~2		○	◎		専門職に関わる様々な課題に対して思考し、表現する方法を身につける。
	実技	1~2		◎	○		専門職に関する技術(技能)を身につける。
	ゼミナール	2			○	◎	学科での学びを通じて身につけた能力を総合的に駆使して、自分の課題に取り組み、探求する。

## ライフデザイン学科

### 【教育目標（教育研究及び人材育成の目的）】

生活の様々な要因を人と環境に関する観点から総合的に捉え、積極的・主体的に行動する態度と健全で豊かな生活を構築するための知識と技術を修得し、問題発見力・問題解決力・社会人基礎力・情報活用力を身につけて、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

### 【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）】

京都文教短期大学の学位授与の方針を前提として、本学科では卒業時に学生が身につけておくべき6つの能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定の単位の修得をもって教育目標（教育研究及び人材育成の目的）を達成したものとみなし、短期大学士（家政学）の学位を授与する。

- DP1 生活に必要な知識と企業や社会で求められる知識を身につけている [知識・理解]
- DP2 生活に必要な技術と企業や社会で求められる技術を身につけている [技術・表現]
- DP3 身につけた知識や技術を活用し、表現することができる [判断・表現]
- DP4 他者と協力し、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる [意欲・態度]
- DP5 生活を健全で豊かにする方法を実践的に取り組むことができる [意欲・態度]
- DP6 独創性のある発想ができ、それを実現するための計画を立て、行動することができる [意欲・態度]

### 【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）】

本学科では、「学位授与の方針」に定めた能力を身につけるために、共通科目と専門科目を基盤とした教育課程を設ける。各科目群のねらいに応じて重点箇所を◎（特に重点を置いている能力）と○（重点を置いている能力）で示す。教育課程は、各授業科目を卒業必修科目と選択科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習、実技の適切な方法により実施する。

#### 学科専門科目

職業現場における様々な諸問題に取り組むことのできる能力を身につけた人材を育成するための科目を学科専門科目として開講し、社会と生活に関わる基礎的な知識を身につける講義、専門的な技術を習得する演習・実技、さらに総合的な能力を駆使して課題に取り組み、探求する研究ゼミナールを置く。

科目群		学年 配当	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	各科目のねらい
専門 科目	講義	1～2	◎	○					社会と生活に関わる知識を身につける。
	演習	1～2			○	◎	◎		社会と生活に関わる様々な課題に対して思考し、表現する方法を身につける。
	実習・実技	1～2		◎	◎	○	○		社会と生活に関わる技術を身につける。
	研究ゼミナール	2			○			◎	学科での学びを通じて身につけた能力を総合的に駆使して、自分の課題に取り組み、探求する。

※各科目のDP「学位授与の方針」は、巻末のカリキュラム・チェック表を参照。

## 【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー. AP）】

京都文教短期大学は、高等学校教育で習得した基礎学力の上に、豊かな教養と専門教育を実施し、謙虚にして、誠実で、親切な人格の形成に努め、健全にして有能な人材並びに良き社会人を育成することを目標としています。本学ではこの目標の実現に向けて、次のような人の入学を期待しています。

1. 短期大学での学習に必要な一定水準の基礎学力を身につけている人
2. 本学の建学の精神、教育方針に共感し、意欲的に学ぶ姿勢のある人
3. 社会人並びに専門職業人として社会に貢献できる人

ライフデザイン学科では、生活者として必要な能力と社会人基礎力を修得し、幅広い分野の学習により専門性と人間力を養い、社会から信頼される人材を育成します。ライフデザイン学科では次のような人を求めています。

1. 社会人基礎力やビジネスマナーを身につけ、即戦力として社会に貢献したい人
2. 健全で豊かな生活を目指し社会人として自立しようとする目的意識を持っている人

例えば、高等学校などで以下のような学習経験のある人の入学を期待しています。

- ・家庭科や美術で作品づくりや調理を経験している人
- ・情報などでコンピューターを活用した学習を経験している人
- ・公民などで社会の仕組みについて広く学習している人
- ・国語で適切に話したり書いたりする学習をしている人

## 食物栄養学科

### 【教育目標（教育研究及び人材育成の目的）】

食と健康に関する専門的な知識と技能を修得し、望ましい食生活を実践して、提案する力を身につける。社会人基礎力として特にコミュニケーション力、問題発見・解決力を涵養し、協働性を高め、人々の豊かで健康的な食生活を支援することを通して、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

### 【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）】

京都文教短期大学の学位授与の方針を前提として、本学科では卒業時に学生が身につけておくべき4つの能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定の単位の修得をもって教育目標（教育研究及び人材育成の目的）を達成したものとみなし、短期大学士（家政学）の学位を授与する。

DP1 食と健康に関して幅広い知識を身につけている。〔知識・理解〕

DP2 健康的な食生活を実現するための技能を身につけている。〔技能・表現〕

DP3 食と健康に関する知識や技能を活用し、表現することができる。〔判断・表現〕

DP4 他者と協力し、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる。〔意欲・態度〕

### 【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）】

本学科では、「学位授与の方針」に定めた能力を身につけるために、共通科目と専門科目を基盤とした教育課程を設ける。各科目群のねらいに応じて重点箇所を◎（特に重点を置いている能力）と○（重点を置いている能力）で示す。教育課程は、各授業科目を卒業必修科目と選択科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習、実験の適切な方法により実施する。

学科専門科目

職業現場における様々な諸問題に取り組むことのできる能力を身につけた人材を育成するための科目を学科専門科目として開講し、食と健康に関わる基礎的な知識を身につける講義、専門的な技能を習得する演習・実験、さらに総合的な能力を駆使して課題に取り組み、探求する総合演習を置く。

科目群		学年配当	DP1	DP2	DP3	DP4	各科目のねらい
専門科目	講義・演習	1～2	◎	○	○	○	食と健康に関する知識を身につける。
	実験・実習	1～2		◎	◎	○	健康的な食生活を実践するために必要な技能を身につける。
	卒業研究	2			○	◎	学科での学びを通じて身につけた能力を総合的に駆使して、自分の課題に取り組み、探求する。

## 【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー・AP）】

京都文教短期大学は、高等学校教育で習得した基礎学力の上に、豊かな教養と専門教育を実施し、謙虚にして、誠実で、親切な人格の形成に努め、健全にして有能な人材並びに良き社会人を育成することを目標としています。本学ではこの目標の実現に向けて、次のような人の入学を期待しています。

1. 短期大学での学習に必要な一定水準の基礎学力を身につけている人
2. 本学の建学の精神、教育方針に共感し、意欲的に学ぶ姿勢のある人
3. 社会人並びに専門職業人として社会に貢献できる人

食物栄養学科では、食と健康に関する知識と技能を総合的に学び、確かな専門性と人間性を備え、社会から社信頼される人材を育成します。食物栄養学科では次のような人を求めています。

1. 食と健康に関心を持ち、知識と技能を身につけたい人
2. 望ましい食生活を実践する力を身につけたい人
3. 栄養士など食の専門家として社会に貢献しようとする明確な目的意識を持っている人

例えば、高等学校などで以下のような学習経験のある人の入学を期待しています。

- ・総合的な学習の時間で、問題解決型学習を経験している人
- ・学校行事や部活動などの課外活動で、目標を設定し積極的に取り組んだ経験をしている人
- ・進路を考える時間で、食に関する職業として栄養士などを調べたことがある人
- ・家庭科の授業などで、自分や家族の健康的な食生活について調べた経験がある人
- ・家庭科の授業などで、グループで食事づくりをおこなった経験がある人

## 幼児教育学科

### 【教育目標（教育研究及び人材育成の目的）】

保育に関する専門的な知識と技術を修得し、柔軟な思考力と表現力、子どもを理解する力を養う。変化し続ける社会に興味・関心をもち、状況を的確に見極める判断力と適切な態度を身につける。子ども・大人の別なく他者とコミュニケーションをとり、自らを振り返りながら主体的・意欲的に社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

### 【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）】

京都文教短期大学の学位授与の方針を前提として、本学科では卒業時に学生が身につけておくべき4つの能力を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定の単位の修得をもって教育目標（教育研究及び人材育成の目的）を達成したものとみなし、短期大学士（幼児教育学）の学位を授与する。

DP1 保育に関して幅広い知識を身につけている。〔知識・理解〕

DP2 保育に必要な技術を身につけている。〔技術・表現〕

DP3 身につけた知識や技術を活用し、表現することができる。〔判断・表現〕

DP4 他者と協力し、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる。〔意欲・態度〕

### 【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）】

本学科では、「学位授与の方針」に定めた能力を身につけるために、共通科目、専門科目を基盤とした教育課程を設ける。各科目群のねらいに応じて重点箇所を◎（特に重点を置いている能力）と○（重点を置いている能力）で示す。教育課程は、各授業科目を卒業必修科目と選択科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習、実技の適切な方法により実施する。

学科専門科目

保育現場における様々な問題に取り組むことのできる人材を育成する。そのための科目を学科専門科目として開講する。保育に関する基礎的な知識を身につける講義、専門的な技術や表現方法を身につける演習・実技、さらに知識や技術を総合的に活かして課題を探究する保育ゼミを置く。

科目群	学年 配当	DP1	DP2	DP3	DP4	各科目のねらい	
専門 科目	講義	1～2	◎		○	○	保育に関する知識を身につける。
	演習	1～2	○	○	◎	○	保育に関する様々な課題に対して思考し、表現する方法を身につける。
	実技	1～2		◎	○		保育に関する技術を身につける。
	保育ゼミ	2	○	○	○	◎	身につけた知識・技術を総合的に活かして、他者と協力しながら、自分の課題を探究する。



## 【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー. AP）】

京都文教短期大学は、高等学校教育で習得した基礎学力の上に、豊かな教養と専門教育を実施し、謙虚にして、誠実で、親切な人格の形成に努め、健全にして有能な人材並びに良き社会人を育成することを目標としています。本学ではこの目標の実現に向けて、次のような人の入学を期待しています。

1. 短期大学での学習に必要な一定水準の基礎学力を身につけている人
2. 本学の建学の精神、教育方針に共感し、意欲的に学ぶ姿勢のある人
3. 社会人並びに専門職業人として社会に貢献できる人

幼児教育学科は、乳幼児の保育と教育に関する知識や技術を総合的に学び、子どもの育ちに寄り添う幅広い専門性と人間力を備えた、社会に貢献できる人材を育成します。幼児教育学科では、次のような人を求めています。

1. 幼稚園教諭や保育士として社会に貢献することを目指し、主体的に学びつづける意欲をもつ人
2. 子ども・大人の別なく他者とコミュニケーションをとることができる人
3. 変化し続ける社会に興味・関心をもち、感性豊かに自然や環境を感じ取れる人
4. 音楽や造形、体育を楽しみ、保育実践に活かせる技術として高める努力をおしまない人